

## 熊本大学学術リポジトリ

### Kumamoto University Repository System

Title	秋時雨
Author(s)	田中, 一弘
Citation	龍南, 183: 98-99
Issue date	1922-10
Type	Departmental Bulletin Paper
URL	<a href="http://hdl.handle.net/2298/8595">http://hdl.handle.net/2298/8595</a>
Right	

急速にその歩を増した、

嵐だ——嵐だ——

反撥の力が起るのだ

この嵐の豫示を前にして

大地はしばしの息を

こらして居る。

一九三二・八・二九

## 秋 時 雨

田 中 一 弘

いつしかも蟬の音たれて夕山のくるゝ茂みに  
虫鳴きて居り

夕されば街路樹しきりに打ちさやぎ衢の風は  
寒くなりにし

深ぐもり時雨となりてやゝ寒し今日し火鉢に  
火を入れにけり

時雨の雨たちまち降りて庭桐の廣葉一様に濡れ垂りにけり

日ならめて時雨降りつゝ庭桐の諸葉はとみに黄ばみたるかも

時雨の雨降りやむものか雨滴のひゞきのみ今は耳立ちて聞ゆ

夕曇りあやしくあかし熟れ残る向つ柿の果照りのさびしさ

こもりつゝたまさかにして雨樋のあたり雀の足音ひそかに聞ゆ

楓葉のはや色づきしこの岡に日かげをほりて我が來つるかも

岡の上の日向に居れば下蔭の枯生かそかに風過ぐるらし